

主体的に問題を解決する理科学習

1 主題設定の理由

昨年度までは、「理科の見方・考え方を働かせる」ことについて、研究を進めてきた。児童が理科の見方・考え方を働かせるために、教師が場や環境を設定すること、評価することにより支援することなどを日々の授業の中で取り組んできた。今年度は、昨年度までの研究を踏まえ、教師の意図的・計画的な支援の基、一連の問題解決の活動を、児童自らが行おうとする姿を目指し、主題を設定した。

2 研究経過(予定)と内容

講師 東京学芸大学附属小金井小学校教諭 三井 寿哉 先生

月	日	内容
4月	20日	・組織決め ・研究活動計画, 研究主題検討
5月	11日	・講演「主体的に問題を解決する理科学習」 ・指導案検討
6月	8日	・研究授業① 5年「メダカの誕生」
7月	6日	・指導教諭模範授業 3年「風やゴムの力」
9月	14日	・研究授業② 4年「月の位置の変化」
10月	12日	・指導案検討
11月	9日	・研究授業③ 3年「ものの重さ」
12月	7日	・今年度のまとめ

3 まとめ

研究授業① 5年「メダカの誕生」(6月)

ペットボトルを使って、一人一水槽を用意し、メダカを飼育した。児童は、自分だけのメダカを飼育・観察することを通して、問題を見だし、解決していくことができた。

児童は、単元を通してメダカに関心をもって学習に取り組むことができた。教室でメダカを飼育しているため、変化が見られたときにすぐに観察することができた。

研究授業② 4年「月の位置の変化」(9月)

日中、学校から見える月を観察することから授業を始め、児童に月を観察するという共通体験の場を設定した。共通体験と個々の経験から問題を見だし、解決していくことができた。

夏休みから継続して、児童が月に関心をもてるようにすること、教師が月の写真を撮影し、資料を作成することにより、月について多様な問題を見いだすことができた。「観察をしてみんなで解決する問題」、「個々に調べる問題」に分け、追究させることができた。